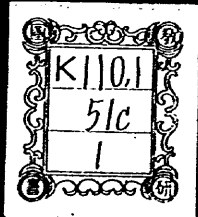


改正脩身論

前篇

一



K110.1

51c

明治十三年九月改正

改正 脩身論

文部省



脩身論凡例

奎運ノ隆盛ニ際シ譯書ノ出ル日ハ一日ヨリ
 然レモ未脩身ノ書ヲ譯スル者有ヲ見ス恐クハ
 學者本ヲ棄テ末ニ趨ルノ弊ナギ能ハサラン一ヲ
 是余ノ淺陋ヲ顧ミスレテ此書ヲ譯スル所以ナリ

一原書ハ「アメリカ合衆國脩身學ノ博士「フランシス
 ウーランド」ノ著述ニテ「エレンツ、オフ、モラル、サイアンス」ト題
 セリ之ヲ譯スレハ脩身學ノ基礎ト云フ義ニシテ
 同氏ノ著述セル大脩身論ヲ簡畧セル者ナリ

一此書分テ前後二編トス前編ハ道理ヲ論シ後編ハ
 實行ヲ説ク

脩身論

七

一原書前編ノ尾ト後編ノ首トニ於テ尚數章ノ議論アレドモ童蒙ノ解レ難キト多キヲ以テ譯者其本意ニ非ラスト雖氏姑ク之ヲ刪除ス

一書中古書ヲ引用スル者多シ譬ハ漢籍中ニ詩經書經等ヲ引用スル如ク數章數句ノ中ヨリ一章一句ヲ引用スルヲ以テ文意連續セサル者間ク之アリ看者其之ヲ尤ル_レ勿_レ

一書中意味ノ解レ難キ處ハ他書ニ據リ蹴註ヲ下レテ之ヲ釋明_レ若シ臆說ヲ用フルキハ按スルニノ字ヲ加ヘテ之ヲ別ツ

明治五年壬申六月

譯者識

修身論前編目錄

第一章 修身ノ定則修身ノ所作及ヒ志ヲ論ス

第一条 修身ノ定則 第二条 修身ノ所作志

第二章 本心ヲ論ス 第一条 本心ノ及ヒ

其人ヲ警戒スルノ方法 第二条 本心ヲ研キ或

ハ之ヲ害フ事 第三条 修身ノ規則

第三章 本心己レテ責ノサルキハ其行必ラス是ナ

リヤ否ヤヲ論ス

第四章 樂ヲ論ス

後編卷一目錄

第一章 人間相互ノ職務ヲ論ス

第二章 身體ノ自由及ヒ之ヲ破ルノ方法ヲ論ス

第一章 各箇人身體ノ自由ヲ妨クル事

第二章 社中身體ノ自由ヲ妨クル事

第三章 所有ヲ論ス 第一章 所有ノ權ノ本義及ヒ之ヲ得ルノ原由 第二章 所有ノ權ヲ犯ス事 第三章 債有形ノ物ニレテ授受永久ナルキノ所有ノ定則即チ賣主買主ノ定則

第四章 一時ノ授受即チ借貸 附 他ノ所有物ノ借貸 危險保管請合

第五章 無形ノ債ニテ貿易スル事

第四章 品性ヲ論ス 第五章 評判ヲ論ス

第六章 眞實ヲ論ス

第一章 確言 第二章 約束 契約

卷二

第七章 親ノ職務及ヒ其權ヲ論ス

第八章 子ノ職務及ヒ其權ヲ論ス

附 子ノ職務ト權トノ存スル時間ヲ論ス

第九章 人民ノ職務ヲ論ス

第一章 政府ノ本義 第二章 政府ノ種類

第三章 合衆國ノ政府

仁惠ノ職務ヲ論ス 第一章 仁惠ヲ論ス

第二章 窮迫ノ人ニ對シテノ仁惠

附 教育ノ專 第二條 惡人ニ對シテノ仁惠
 第二條 己ヲ害スル者ニ對シテノ仁惠
 第三章 畜類ニ對シテノ職務ヲ論ス

修身論目錄終

修身論前編

阿部泰藏 譯

第一章

修身ノ定則修身ノ所作及ヒ志ヲ論ス

第一條

修身ノ定則

修身論ハ身ヲ脩ムル定則ノ學ナリ故ニ之ヲ學
 フニハ先ツ定則ノ字義ヲ知ラサルヘカク例
 セハ茲ニニツノ事アリ甲比ンスレハ乙必ス之

ニ次ク此一定離ルヘカラサル關係ヲ定則ト名
ケ或ハ之ヲ介テ其先ニ起ルモノヲ原因ト云ヒ
次テ起ルモノヲ實効ト云フ左ニ其例ヲ掲ク
水ヲ冷ヤシテ某ノ度ニ至ラシムレハ水必ス變
シテ氷トナル故ニ化學者水ハ某ノ度ニシテ氷
トナルヲ定則トス又水ヲ暖メテ某ノ度ニ至ラ
シムレハ水必ス變シテ蒸氣トナル故ニ化學者
某ノ度ニシテ水ノ蒸發スルヲ定則トス是則チ
冷ハ水ノ凍ル原因ニシテ熱ハ其蒸發スル原因
ナリ

斯ク原因ト實効ト一定離ルヘカラサルハ之ヲ
シテ關係相離レサラシムルカト何レノ時ヲ論
セス何レノ地ニ於テモ此カヲ使用スル者ト無
キヲ得ス故ニ自然ノ定則アルハ萬物ヲ主宰
スル天アルノ證ナリ

天斯ク原因ト實効トフシテ一定離レサラシメ
シハ人ヲシテ事ヲ行フニ其方向ヲ知ラシメン
カ為メナリ故ニ水ヲシテ某ノ度ノ熱ニ於テ沸
騰セシムルハ人ヲシテ水ヲ沸騰セシメント欲
スル時某ノ度ノ熱ニ至ラシムヘキヲ知ラシ

之ニカ為メナリ蓋シ天ハ定則ヲ變スルコトナキ
 モノナリ故ニ人何事ヲ為ストモ天ノ定メタル
 定則ニ從ハサレハ決シテ成功アルコトナシ
 身ヲ脩ムルコトモ亦此ノ如ク人ハ自ラ其所行ノ
 是非ヲ知ルモノニシテ虚言、偷盜、殺害、殘忍等ヲ
 ナスハ其非ナルヲ覺エ眞實、正直、慈愛、親切、記恩
 ハ其是ナルヲ覺エ故ニ縱令少年ノ者ト雖モ深
 思ヲ待スルテ其所行ノ是非ニ因リ隨テ心ニ生
 スル所ノモ、亦異ナルヲ知ル即チ己ノ行非ナ
 ル時ハ悔悟ノ意ヲ生シテ自ラ其心ノ苦シキヲ

覺エ他人ノ之ヲ知ルヲ恐レテ其事ノ發露スル
 時ハ人ノ己ヲ賤ミ惡ムヲ知ル之ニ反シ其行是
 ナル時ハ其心自ラ樂シキヲ覺エ慚愧後悔ノ念
 ナク人ノ皆己ヲ重ンスヘキコトヲ知ル
 所作ノ是非ニ因リ心ニ苦樂ヲ覺ユルハ一定離
 ハサルモノナリ故ニ之ヲ定則ト名ケ此關係ハ
 萬物ノ靈タル人ノ行ニノミ限リタルモノナリ
 因テ之ヲ修身ノ定則ト云フ
 人其行ノ是非ニ因リ苦樂ヲ覺ユルハ決シテ變
 スヘカラサルモノナリ故ニ天ノ定メタル定則

ナルヲ疑フニ天ノ斯ク定則ヲ定メタル其趣旨
 普ク人ヲ教ヘ導クニ在リ蓋シ人其行正シキ
 時、其心必ス樂シキヲ覺ユ其行正シカラサル
 時、其心必ス苦シキヲ覺ユ此ニ由テ考レハ天
 言ハサレ正ヲ愛シ不正ヲ憎ムト明カナリ
 譬ヘハ人ヲ殺ス者盡ク死ヲ以テ罰セラレ、キ
 ハ縱令文字ニ書シテ之ヲ禁ヤサレハ人ヲシテ
 殺害ノ非ヲ知ラシムレニ至テハ少シモ異トガ
 一ナキカ如シ

第二條

修身ノ所作

志

何物ニテモ目的アリテ事ヲ為セハ之ヲ所作ト
 名ク
 人畜共ニ目的アリテ事ヲ為スモノナリ蓋シ畜
 類ノ互ニ相害シ或ハ人ヲ傷フモ亦傷害ヲ為人
 可キ目的ヨリ出ツ
 然レハ人ト畜類トハ其所作自カラ別アリ人ハ
 其所作ノ是非ヲ知レバ畜類ハ之ヲ知ルヲ能ハ
 ス故ニ畜類ノ所作ハ修身ノ所作ニ非ラス修身
 ノ所作トハ唯是非ヲ區別スル人ノ所作ノミヲ

云フ
 人ノ事ヲ為スニ或ハ偶然ニ出ツルモノアリ譬
 ハハ人ノ来ルヲ知ラスシテ球ヲ投ケ誤テ之ヲ
 傷ケクルカ如シ斯ル偶然ノ過ハ不安ノ心ヲ懷
 クト雖モ敢テ罪惡ヲ犯セト思フコトナシ然レ
 其志ヨリ出テ或ハ粗忽ニ由リ人ヲ傷害セシテ
 非ラサレハ本心ノ已ヲ責ムルコトナシ
 又好意却テ人ノ害トナルコトアリ譬ハ病人ニ
 食物ヲ贈リ之カ為メニ病苦ヲ増スコトアルカヤ
 病人ニ對シテハ自ら不長ノ心ヲ生スルモ素

ト好意ヨリ出タルニ因リ本心ノ已ヲ責ムルコト
 ナシ是等ノ例ヲ以テ考フレバ所作ノ是非ハ其
 志ノ善惡ニ因ルモノナルコト推テ知ルヘシ
 志ノ惡シキニ數種アリ
 第一 人ニ害ヲ加ヘント欲スルハ惡シ譬ハハ
 怒ニ乘シテ人ヲ打チ或ハ人ヲ謗リテ其評判ヲ
 惡シクスルカ如キ是ナリ
 第二 人ノ不幸ヲ顧ミス已ヲ慰メント欲スル
 ハ惡シ譬ハハ惡心アルニ非ラスシテ戯レニ人
 ヲ嘲笑スルヲ樂トスルカ如キ是ナリ豈人ノ樂

フ妨クテ己ヲ慰ムルノ理アラシヤ
總テ天ノ定則ニ背キタル事ヲ為サント欲スル
ハ皆惡シキ志ニシテ畢竟天ノ定則ノ大意ハ曰
ク一心天ヲ愛セヨ曰ク己ノ欲スル所之ヲ人ニ
施セ此ニ言ノ外ニ出テス

第三 所作ノ是非ハ志ノ善惡ニ本ツクモノナ
リ故ニ若シ惡事ヲ為サント欲スレバ縱令之ヲ
為シ得スト雖モ其惡事タルヲ免レヌ又善事ヲ
為サント欲スレバ縱令之ヲ行フテ能ハサレモ
天必ス之ヲ好ミヌ故ニ天ヨリ之ヲ見レバ貧人

慈悲ノ念ハ富人ノ物ヲ施スト毫モ優劣無シ

第四 善行ニハ善志ナカルヘカラス故ニ縱令

善事ヲ行フモ善志ヨリ出タルニ非ラサレバ真

ノ善事ト云フヘカラス譬ヘハ此ニ裁判人アリ

テ人ノ為メニ冤ヲ伸ハシ怨ヲ報スルカ如キハ

善事ナレモ天ヲ畏レヌ亦人ヲ重ンセス只速カ

ニ其身ノ煩勞ヲ免レンカタメニ裁判セシバハ

善事ヲ行フタルニ非ラス畢竟其志ハ己ノ煩勞

ヲ免レンカタメノミ又子父母ノ命セシ事ヲ行

ノト雖モ心ニ之ヲ好マサルカ如キ縱令父母ノ

命ニ背カスト雖凡真ニ父母ヲ親愛シ好テ命ニ
役フニ非ラス故ニ孝子ト云フヘカラス
人ノ志ハ大ニ平生ノ感覺ニ關係スルモノナリ
人々注意セサルヘカラス蓋シ常ニ猜忌報復毒
惡ノ感覺アル者ハ其所業亦猜忌報復毒惡ニ陷
リ易ク斯ル感覺ハ人ヲ惡事ニ誘フモノナリ故
ニ其感覺亦惡ニキ者タラサルヲ得ヌ聖人曰ク
諸惡皆其心ヨリ生スト蓋シ此謂ナリ

第二章

本心ヲ論ス

第一条

本心ノ解及ヒ其人ヲ警戒スルノ方法
人何事ヲ為スニモ之ヲ為スノ具ナカルヘカ
ス故ニ歩スルニ足ナカルヘカラス視ルニ目ナ
カルヘカラス聴クニ耳ナカルヘカラス百事皆
然リ
無形ノ所作モ有形ノ所作無形有形トハ見ルハ
ハキモノトヲ云フ即チ人カラサルモノト見ル
ノ内都ト外物トノ別ナリト異ナルヲナシ故ニ
物ノ考ヘ或ハ物ニ感スルニハ精神ナカルヘカ
ラス事ヲ記憶スルニハ記憶ノ力ナカルヘカ

人ハ所作ノ是非ヲ區別スルノカアリテ己ノ所作ノ是非ニ因リ一種ノ感覺ヲ起スモノナリ此能カヲ本心ト名ク此人ニノミ限リタルモノニシテ畜類ニ於テハ此能カアルトナシ此是非ノ感覺ハ天ニ對シ或ハ人ニ係ハルノ差別ナク都テ人ノ所作ニ屬スルモノナリ諭ハ茲ニ一童子アリ虚誕ヲ吐キ或ハ擔ヲナレ或ハ禮拜日ヲ犯ス時ハ人之ヲ聞見セサレ民自テ其身ノ罪ヲ天ニ得タルヲ覺ニ天罰ヲ蒙ルヘキ

ヲ恐ル又物ヲ盜ミ或ハ其伴ヲ誦シ或ハ之ヲ打チ或ハ之ヲ賤ミ辱カンムル時ハ亦自ラ人ヲ害セシ罪ヲ覺シ其面ヲ見ルヲ慙テ己ノ所作ノ罪ヲ得可キヲ知ル

四 人動物ヲ害スル時モ亦此感覺ヲ起ス

之ニ由テ考フレハ本心ハ天ニ對シ人ニ係ハルノ差別ナク己ノ所作ノ是非トヲ區別スル能カニシテ他人ノ所作ニ於テモ亦其是非ヲ區別スルヲ己ノ所作ト異ナルナリ故ニ本心ハ總テ

備身、所作、是非ヲ區別スル能力ニシテ又此
 本心ハ帝ニ其是非ヲ區別スルノミニ非ス事ノ
 是ナリト思フニ違ハハ鼓舞レテ之ヲ行ハシメ
 其非ナリト思フニ違ハハ制止シテ行ハシメス
 又事ノ是ナルヲ行ハハ其心ノ樂シミヲ覺エ非
 ナルヲ行ハハ其心ノ苦シキヲ覺ユルカ如キ亦
 此能力ニ因ル
 本心ノ人ヲ警戒スルヲ知ラシムベキタメ所作
 ノ是非ニ付キ生スル所ノ感覺ヲ左ニ略説ス
 茲ニ不孝ノ子アリ父ニ對ンテ怒ヲ發レ其打ツ

ハキヤ將タニニヘキヤト考フルキハ父ハ己ヨ
 ノ其力強ク之ヲ打ツキハ懲治ニ違フヲ思フノ
 念恐クハ先ツ生スヘシ故ニ其得失ノ償ハナル
 ヲ顧ミシテ父ヲ打ツニ愚ナリト思フノ念ヲ生シ
 故テ為サハルニ至ルト雖モ若シ父病ニ罹リ子
 之ヲ打ツニ懲治スルト能ハザル時ハ憐愛ノ情
 頓ニ動キ其子孰考ヲ待タスシテ直ニ父ヲ打ツ
 ノ非ナルヲ覺ユルコト父ノ己ヲ懲治スルト否ト
 ニ毫モ關係スルトナシ又童子アリ他ノ童子ノ
 病ニ卧シタル其父ニ孝ヲ盡サズ之ヲ打ツヲ見

ルキハ其所作ノ兇惡ナルヲ疾々懲治シテ可ナ
 リト謂フヘシ又子其父ヲ打タント欲シ却テ種
 種ヲ受ケルホハ入之ヲ憐ムト雖尺其傷ヲ受ク
 ルハ當然ノ理ナリト謂ハサル者ナカレヘシノ
 子父ヲ打ツノ非ナレヲ覺ユルホハ恰モ父ヲ打
 ツヲ勿レト告戒スル者ナルカ如キヲ覺エ其怒
 ヲ發スルキ心ニ兩端ヲ懷テ怒氣ハ之ニ其父ヲ
 打ツヲ勸メ本心ハ之ヲ制シテ恰モ父ヲ打ツヘ
 カラスト告ルカ如シ故ニ其怒ニ任スルト本心
 ニ從フトニ因テ善惡ノ別生ヌ又一童子玩具ヲ

買ハンカ為メ錢ヲ七ヒ玩具舖ニ行ク其途中貧
 婦ノ子ノ餓テ死ナントスルヲ見レハ其遊ヲ欲
 スルノ念ハ之ニ勸メテ玩具ヲ買ハシメントレ
 本心ハ之ニ勸メテ餓子ヲ救ハンメントス此時
 私欲ノ情深キ童子ハ玩具ヲ愛スルノ念ヲ制止
 スルト能ハス其餓死ヲ顧ミサルニ至リ善良ナ
 ル童子ハ本心ノ勸メニ役ヒ私欲ヲ抑ヘテ錢ヲ
 與ヘ以テ其窮餓ヲ救フヘシ
 事ヲ行フテ後ニ心ニ生スル感覺ニ因リ本心ノ
 人ニ善ヲ勸ムルカ惡ヲ勸ムルカヲ知ルニ足ルヘ

今上ニ記スル例ニ就キ之ヲ論スルニ童子モ
 シ錢ヲ與ヘ餓者ヲ救ヒシキハ其心樂シクシテ
 自ラ其行ニ善トシ又他人ノ之ヲ行フヲ見レノ
 其人ヲ愛慕シテ其報ヲ得ルヲ願フハレ又若シ
 其錢テ施セシ童子後ニ餓者ヲ救ヒシ地ヲ過キ
 嘗テ施セシ額ヨリニ倍ノ錢ヲ得ルヤハ人皆之
 ヲ喜ヒ其報ヲ得タルハ當然ナリト謂フ可シ
 之ニ及シ童子餓者ヲ 顧憐ヒス甚シキハ之ヲ罵
 リ或ハ之ヲ打チ其地ヲ去リシ後ニ己ノ行ヲ四
 想スルキハ慚愧憂悶シテ其心甚ク樂シマス自

惡報ヲ承ク可キ懼心ヲ生レ他人ノ此事ヲ行
 フヲ見レハ亦其人ヲ厭忌レテ相與ニ交ルヲ欲
 セス其行ヲ所罰ヲ受ケテ可ナリト謂フ可シ
 是惡ヲ行ヒシ人ハ危懼シテ其心安ンセス善ヲ
 行ヒシ人ハ胆氣威壯ニシテ畏憚スル所ナキ所
 以ナリ夫惡ヲ行ヒシ人ハ己ノ罰セラルヘキヲ
 知ル故ニ人皆己ヲ罰セシトテ恐ル善ヲ行ヒシ
 人ハ己ノ賞セラルヘキヲ知ル故ニ何人ニ對ス
 レトモ敢テ恐ルハ所ナレ
 是惡事ノ發露シ易キ所以ニシテ惡事ヲ為レタ

人ハ畏懼慚愧ノ念其色ニ發シ其行ニ形ハレ
テ之ヲ掩ハント欲スレハ愈其醜態ヲ現ハスニ
至ル故ニ古書ニ曰ク惡人ハ自ラ其手ニ捕ヘラ
レ縱令ヒ協心戮カレテ之ヲ防カント欲スルニ
終ニ其罰ヲ免カレハヲ得サルヘント

第二条

本心ヲ研キ或ハ之ヲ害フ事

人ノ能カハ或ハ之ヲ研クトヲ得或ハ之ヲ害フ
トヲ得ハレ蓋シ同年ノ人ト雖モ強健ノ人アリ
軟弱ノ人アリ或ハ腕力ニ強キ者アリ或ハ脚力

ノ健ナル者アリテ内部ノ能カモ亦然リ強記ノ
人アリ健忘ノ人アリ文ヲ作ルニ速ナル者アリ
遅キ者アリ其他勝テ數フヘカラス

太抵最モ強キ能カハ最モ多ク用フモノナリ
茲ニ二人アリ甲ハ乙ヨリモ力勝レリ因テ之ヲ
推問スレハ果シテ甲ハ乙ヨリモ力ヲ勞スルコ
多キ者ナリ故ニ平生腕ヲ用フルヲ職業トスル
者ハ其腕必ス強ク多ク歩行スル者ハ其脚必ス
健ナリ又常ニ記憶ノ力ヲ用フル者ハ強記トシ
稀ニ之ヲ用フル者ハ健忘トナル故ニ總テ人

ノ能力ノ之ヲ用フレハ常ニ強ク用ヒサレハ常ニ弱キヲ通常トス
 人ノ本心モ亦此規則ノ如レ
 所作ノ是非ヲ決セシカ為メ本心ヲ用フルヲ敢ナレハ是非ヲ區別スルヲ増容易ナルヲ得可シ
 故ニ常ニ何事ヲ為スニモ此事ハ是ナリヤ非ナリヤト自ラ心ニ問ヒ然ル後ニ之ヲ行ハハ己ノ職務ヲ過ツコト幾ト稀ナリ成人小兒ノ別ナク皆然ラザルハ無レ
 德行ニ注意シテ有徳ノ人物ヲ思念スレハ其本

心是非ヲ區別スルノ力ヲ強クス之ノ行ヲ一數ナレハ非ヲ知テ之ヲ避クルト愈易ニ本心ヲ研キ徳ヲ修メント欲スル時聖人ノ成徳ヲ思念スヘキハ蓋シ是カ為メナリ故ニ少年輩ハ常ニ古ノサニユール言セフダニール近代ノロレニシ及ヒ其他先賢ノ人ト為リヲ思念スヘシ若シ之ニ反スレハ其是非ヲ區別スルノ力ヲ弱クスル辨ヲ待タス
 人已ノ所作ノ是ト非トヲ省察スルニ急リ是ヲ行ヒ非ヲ行ノ敢テ其心ニ留メザル時ハ每事是

非ヲ決スルノ難キニ至ルヘシ故ニ父母ハ兒ニ
 其所作ヲ省ミテ是非ヲ決スヘキヲ教フルルハ
 之ヲ教ヘサル小兒ニ比スルニ其事ヲ為スノ際
 能ク是非ヲ辨スヘシ是世人ノ普ク知ル所ナリ
 又惡事ヲ見聞シ或ハ常ニ惡念ヲ懷ク時ハ是非
 フ決スルノ力ヲ弱クス蓋シ童子他人ノ擔ヲ為
 スヲ始ラテ聞ク所ハ其非ナルヲ覺ユレト之ト
 親シク交ハルルハ其擔ヲ為スノ見レト掛念セ
 ス久シカラスレテ自ラ擔ヲ為スニ至ルヘシ
 誕殘酷惡口及ヒ其他ノ諸惡皆然リ故ニ人ハ友

ヲ
 謹テ惡人ト交ルヘカラス
 前条ニ云ヘル如ク本心ノ人ニ是ヲ為スヲ勸ム
 ルハ恰モ詞ヲ以テ命令ヲナスカ如ク此命令ハ
 之ヲ用フルト用ヒサルトニ因リ強弱ノ別ヲ生
 スルモノナリ故ニ常ニ小心翼クトシテ本心ノ
 命令ニ従ハント欲スル人ハ惡念ノ之ヲ誘惑ス
 ル力弱ク常ニ正直ナルヲ務メ又戯ト雖モ人ヲ
 騙ストナカラント欲スル人ハ其心不正ヲ防ク
 強シ然ルニ時ニ靈言ヲ吐キ或ハ人ヲ騙ス者
 ハ靈誕不正ヲ防クノ心次第ニ減シ其偷鬼靈言

者ニ陷ラサル者ハ之ヲ僥倖ト謂フヘシ
 右ノ規則ハ互ニ相關係スルモノニシテ己ノ所
 作ノ是非ノ省察スル數ナルハ是ヲ為サント欲
 スルハ心愈強ク是ヲ為サント欲スルノ心強ク
 是非ヲ區別スルヲ愈易シ
 本心ハ苦樂ノ源ナルヲ前條ニ於テ既ニ之ヲ詳
 論ス然ルニ此苦樂ハ人ノ本心ヲ用フル多少ニ
 由リ又強弱ノ差アリ
 人善事ヲ行フテ數ナレハ善ヲ行フヲ樂ムノ念
 愈深ニ故ニ仁者ハ其心常ニ樂キヲ覺ニ稱ニ善

事ヲ行フ者ハ之ヲ樂ムノ念少ナレ故ニ善ヲ為
 セル其心幾ント樂ヲ知ラス然ルニ真ノ仁人ハ
 善ヲ行フテ人ヲ樂マシメ亦以テ恒ニ己ノ樂ト
 ナス蓋シ善事ヲ行フテ樂ヲ得ル時ハ其為スヘ
 キ善事極テ多クシテ貧富少長ノ別ナク隨意ニ
 善事ヲ為シテ其樂ヲ得可キ世界ニ天ノ人ヲ任シシテ其大
 ノ恩ト思フ可シ
 之ニ反シ數本心ニ背ケハ非ヲ為セル其苦ヲ覺
 エルヲ次第ニ少ナシ故ニ童子始メテ虚言ヲ吐
 キ或ハ惡言ヲ出ス時ハ其非ヲ覺エテ心甚々樂

レカラサレハ其習慣トナルニ至テハ少レモ其
 苦ヲ覺ユルコトナク甚タレキハ人ニ對シテ之ヲ
 誇ルニ至ル偷盜及ヒ他ノ諸惡皆然リ
 此ノ如キキハ惡人其苦ヲ覺ユルコト少クシテ惡
 事ヲ為スヲ得故ニ天ハ惡人ヲ利スルニ似タリ
 ト雖モ深ク之ヲ考フレハ全ク之ニ反セリ其故
 ハ人若シ非ヲ為スヲ畏レテ之ヲ為セハ本心其
 若ヲ覺ユル故ニ非ヲ為スコト降ニシテ且之ヲ秘
 スト雖モ若シ本心其苦ヲ覺ニサルニ至ルキハ
 大膽ニシテ顧忌スル所ナク公然其非ヲ行ノコト

因リ忽チ相當ノ罰ヲ受ク可シ故ニ人ノ非ヲ行
 ノル本心ヲレテ之ヲ制止セシムルハ是天ノ惠
 ニシテ若シ本心ノ之ヲ制止セサルニ至リ其罰
 ニ逢フハ是天ノ怒甚タレタシテ其自滅ニ任ス
 ル證據ナリ然レモ斯ク非ヲ行フヲ制止スル本
 心ノ鈍キハ又只一時ニ過キスシテ永ク回復セ
 サルコトナシ故ニ其病ニ卧レ或ハ死ニ臨ミレキ
 ハ數本心ノ發露スルコトアリテ且其本心ノ力ハ
 現世ヨリ未來ニ於テハ更ニ強大ニシテ生前惡
 事ヲ行ハム永ク苦惱ノ源トナルヘシ

上ノ論ヲ由リ之ヲ推セハ左ニ記スル事件ノ際
然タルヲ知ルベシ

第一 人は行フテ數ナレハ之ヲ行フテ愈易
クレテ其樂愈大ナリ誘惑ヲ拒ムテ數ナレハ同
等ノ誘惑アリト雖凡之ヲ拒ムテ愈易ニ故ニ人
ノ徳ニ進ムマ其一步毎ニ更ニ徳ニ進ムノ預備
ヲナシ次第ニ相積ムノ後ハ確乎動カスヘカラ
サレ人物トナルヘシ

第二 之ニ反シテ非テ行フテ數ナレハ誘惑ヲ
拒ムテ愈難ク罪ニ陷ル愈易クシテ本心ノ制止

スル際ニ昔クト雖凡之ヲ悔ルノ念愈少ナシ故
ニ罪ニ陷イル深ケレハ徳ニ復スル愈難クシテ
回復ノ望次第ニ絶スレニ至ル

此ニ由テ人ハ常ニ誘惑ヲ拒ミ斷然其是ヲ行フ
ノ大事タルヲ知ルヘシ又惡事ノ習慣トナリシ
キハ果然トシテ直ニ之ヲ改メ須臾ニ猶豫スヘ
カラス若シ之ノ遲クスルキハ之ヲ改ムル愈難
クシテ之ニ克ツル力愈減スルニ至ルヘシ人ニ
對スルノ罪猶此ノ如シ況ニマ天ニ對スルノ罪
ニ於テナヤ

左ノ註解ハ「レ」ニ「バ」ニ「ル」ミセラニ「ト」云ヘル書
中ニ記シタルモノニシテ能ク此条ノ義ヲ明カ
ニス故ニ今茲ニ附録ス

警鐘ノ註

一女子アリ早起セント欲スレバ眠ノ覚メ難
キヲ患ヒ警鐘ヲ買ヘリ此警鐘ト云ヘルハ何
時ニテモ随意ニ大ナル響ヲ發スヘク造リレ
モノナリ
此女ハ其警鐘ヲ床頭ニ置キ期ニ届リテ其響
ノタメ眠ヲ驚カサレ聲ニ應ンテ早起シ終日

其心快ク此ノ如キ者數周日警鐘モ亦其職ヲ
怠ラズ其聲鏘然タリシカ後女子早起ニ倦ミ
警鐘ノ為メニ驚回セラルレバ唯之ヲ願ルノ
ミニシテ再ヒ眠ニ就キ數日ノ後ハ警鐘ノ聲
復タ其眠ヲ覺スヲナレ其故ハ其響回スルニ
背クヲ習慣トナリテ警鐘ハ故ノ如ク響ケル
復タ之ヲ聞クヲナキニ因レリ是ニ於テ其女
子ハ警鐘ノ有レバ無キガ如キヲ省ミ斷然意
ヲ決シテ再ヒ其響ヲ聞クキハ直ニ起キテ其
警戒ニ背カサラシム期シタリ能ク過ヲ改ム

者ト謂フヘシ

本心亦此ノ如ク小事ト雖モ人能ク其命令ニ從フモハ其聲ヲ聞クト常ニ鏘然トシテ或ハ其非ナルヲ思フテ之ヲナセハ次第ニ感覺ヲ鈍クナレ終ニハ本心ノ聲コト驚回スルトナリト至ルヘシ

第三各

脩身ノ規則

人ハ何事ニ於テモ之ヲ為サント決メサレ前非ト左規則ニ注意スヘシ

第一 事ヲ為スニ先ツ此事ハ是ナリヤト自ラ

之ヲ心ニ問フヘシ此問ニ答ヘレムヘキ為メ天

人ニ本心ヲ賦與セリ故ニ若シ己ノ行フヘキ職

務ヲ知ルヘキ為メニ其本心ヲ用ヒサルハ是大

惡ニシテ天必ス之ヲ罪ス且之ヲ其本心ニ問フ

ハ必ス事ヲ為シ始メサル前ニ於テスヘシ若シ

既ニ之ヲ為シ始メ或ハ之ヲ為サント決シタル

後ハ恐ラクハ遲クシテ及ハサルヘシ

第二 上ニ記シクル如ク入ハ本心ノ命令ニ從

ハスレテ之ヲ害フニ至ル事ヲ毎ニ想起スヘシ

人ハ數其本心ニ背キテ本心十分ニ正レキヲ得
 ス因テ其事ニ當ルノトキ數是非ノ決レ難キヲ
 アリ故ニ若シ是非ノ分明ナラサル所之ヲ行ハ
 スレテ妨クナキニ於テハ決レテ之ヲ行フヘカ
 ラス

第三 常ニ本心ノ命スル事ヲ行ヒ本心ノ禁ス
 ル事ヲ為サ、ルヲ規則トスヘシ故ニ言行思念
 ノ別ナク或ハ公ニ之ヲ行ヒ或ハ私ニ之ヲ行ヒ
 又ハ己ノ大害ヲナス尺毫モ之ニ關係ヤス只己
 是ナリト思フ事ノ為スヘシ蓋シ害ノ最モ大

ナルハ常ニ非ヲ為スヨリ起リ益ノ最モ大ナル
 ハ常ニ是ヲ為スヨリ生ス故ニ人ハ世ノ譏譽ヲ
 傾ハス常ニ天ニ從フヘシ

第一 常ニ己ノ行ヲ省ミ其是非ヲ決スヘシ是
 ヲ省身ト云フ

第二 省身ハ小心ヲ主トス故ニ獨リ閑室ニ坐
 レテ靜カニ之ヲ行フヘシ且ツ之ヲ行フハ別ニ
 時間ヲ用フルニ非サレハ決レテ為スヲ能ハサ
 レヘシ

省身ノ類ヲク公平ニスヘシ故ニ己ノ是非ヲ決
 スルハ必ス其正シキニ出ルヲ務メ假リニ他人
 ノ己ノ地位ニ置キ己ノ行フタルトテ他人ノ行
 フタルトテ看做シテ以テ其是非如何ト省ミル
 ヘシ又天ノ定則ト先賢ノ模範トヲ鑒ミテ己ノ
 行事ノ之ト合スルヤ將タ^{チカニ}趨^{チカニ}スルヤヲ考フム
 故ニ其父母長者ト共ニ天ノ定則及ヒ先賢ノ
 模範等ヲ談論シ自ラ是非ノ決シ難キ事アラハ
 其教諭ヲ請フヘシ少年ノ為メニ甚タ有益ノ事
 ナリ

己ノ行ヲ省ミ其是非ヲ決セシ後ハ左ノ規則ヲ
 守ルヘシ

第一 行是ナリシキハ天ノ己ヲシテ是ヲ行フ
 フ得セシノタルヲ謝シ更ニ徳ニ進ムヲ務ムヘ
 シ

第二 是非相混シタルキハ審ニ其混シタル原
 因ヲ察シ再ヒ過ニ陷イルヲ避クヘシ

第三 行非ナリシキハ左ノ規則ニ従フヘシ

其一 其行ヲ省ミ自ラ其罪ヲ知ルニ至ラサレ
 ハ止ムト勿レ

其ニ 甘ンテ本心ノ苦ヲ受ケ他事ヲ為シテ
其苦ヲ忘レント欲スルコト勿レ本心苦ヲ受ケレ
ハ後ニ非ヲ為スヲ避ルコト易シ
其三 自ヲ過ヲ悔メ再ヒ其行ヲ可カラサルヲ
決意スルニ至ル迄ハ之ヲ忘ルコト勿レ
其四 已ノ為シタル害ヲ償フヲ得ハ直ニ之ヲ
償フヘシ若シ人ニ對シ靈誕ヲ吐キタルハ直
ニ行テ之ヲ白狀スヘシ又已ノ所有ニ非ラサル
物ヲ取りタルハ行テ之ヲ返スヘシ若シ人ニ
害ヲ行フテ之ヲ償フコト能ハサルハ其償ニ代

フルノ方至少ト雖モ行テ其過ヲ謝ヒサルヘカ
ラス
其五 何事ニ於テモ惡ハ總テ天ニ對シテノ罪
ナリ故ニ至誠ヲ盡シ悔悟シテ天ノ赦免ヲ請フ
ヘシ
其六 思念及ヒ所行ノ別ナク其罪惡ノ原因ヲ
察シ後來慎テ之ヲ避クヘシ
其七 上ノ諸件ヲ行フニハ皆至誠ヲ盡シ天ニ
倚頼シテ之ヲ為スヘシ天ハ慈悲ノ心深ク各處
在ラサル所ナク常ニ人ヲ扶助シテ其誠ヲ守ラ

シメント欲ス故ニ人之ニ依頼スルヤハ天ハ決
レテ之ヲ棄ルコナシ
上ニ記スル所ノ説ヲ見レハ人ハ少長ノ別ナク
皆重責ヲ負戴スルヲ覺ラサルハカラス其故ハ
人々皆天ニ對シ人ニ對シテ其職務ヲ警戒スル
ノ能カヲ有ス此能カハ各處在ラサル所ナレ人
若シ其警戒ヲ聽カント願フヤハ何レノ時ト雖
平常ニ之ヲ聽クヲ得ヘシ又此能カハ其黙スル
ヲ願ヘテ屢人ヲ警戒レテ其是ノ行フヲ勸ム故
ニ人若シ非ヲ為スバハ天ニ對シテ辨解ノ辞ナ
ク

シ殊ニ此本心ハ永ク人ト相離レス萬世苦樂ノ
源ヲ為セハ此論ノ確然トシテ愈變易スヘカラ
サルヲ知ルニ足ルヘシ又少年ト雖モ其本心ヲ
有スルトハ成人ト相異ナルトナレ故ニ亦此規
則ニ從ハサルヘカラス若シ之ニ背クハ天ノ
罰ヲ與フル必ス成人ト異ナルトナレ

第三章

本心已ヲ責メサルキハ其行必ラス是ナリ
ヤ否ヤヲ論ス

人アリ他人ハ惡事ト思フ所行ヲ為セ凡己ノ本

心ハ己ヲ責メサルコトアリ故ニ他人ハ擔ヲ為ス
 ラ罪ナリト思ヘル其人ニ在ラハ擔ヲ為シテ毫
 モ妨ナシト謂フ者アリ是レ何ノ故リ且天ヨリ
 之ヲ見レハ此ノ如キ者ハ眞實ノ罪ニ非ラサル
 ヤ
 答フ前ニ云ヘル如ク人若シ其本心ノ命令ニ從
 ハサンハ終ニ之ヲ損フモノナリ故ニ令童子擔
 フ為シテ本心己ヲ責ムレバ敢テ其命ニ從ハサ
 レハ更ニ擔ヲ為スノハ本心ノ己ヲ責ムルコト較
 少ナク推テ數次ニ至ル片ハ愈少ナクシテ終ニ

ハ其本心全ク己ヲ責サルニ至ル可シ然レモ其
 事ノ非ナルニ於テハ敢テ初ニ異ナルコトナシ譬
 ハハ今日輪ヲ仰キ看ル者初メ凝視スルキハ較
 其目ヲ損ヒ再ヒ凝視スルキハ愈其目ヲ損フテ
 相繼テ已メサレハ終ニ全ク盲者トナレトモ日
 輪ノ光輝ハ毫モ減少セサルガ如シ
 人ハ總テ天ノ罪人ナリ故ニ天ヨリ見ルキハ實
 ニ大惡ノ事ト雖モ人々自ラ知ラスシテ之ヲ行
 フコト無キニ非ラス蓋シ不孝ノ子ハ其父母ニ後
 ハサルヲ自ラ非ナリト思ハサルコトアリ然レモ

思ハサルニ因リ其惡ヲ減スルコトナシ又人ハ大抵天ニ背キ其仁惠ヲ遺忘ンテ罪ト思ハサルコトアリ然レ亦之ニ因リ其罪ヲ輕クスルコトナシ斯ク本心ノ鈍キハ人ノ過ヨリ生スルモノナレハ之カ為ノ其咎ヲ輕クスルノ理ナシ故ニ罪ヲ犯シテ本心已ヲ責メサレレ初ノ本心ノ已ヲ責メテ時ノ如ク其罰ヲ受テ可ナリ

左ニ習慣ノ事ヲ略論スルニ

人事ヲ行フコト數ナレバ之ヲ行フ甚ク容易ニシテ幾ント思慮ヲ用フルコトナク終ニハ自ラ之

ヲ行フヲ禁止スルコト能ハサルニ至ル可シ琴瑟ヲ彈シ又ハ或ル言語ヲ用フルカ如キ其習慣ノ得ルノ甚ク速カナル人ノ能ク知ル所ナリ

修身ノ所作モ亦同レク人常ニ善事ヲ為セハ其善習慣トナリテ知ラス識ラス善事ヲ行ヒ數年事ヲ為セハ亦其習慣トナリテ終ニハ之ヲ行ハルモ省察スルコトナキニ至ル

問ノ惡事ト雖モ習慣トナリタルモ其惡輕キ否⁺天ノ一タヒ禁セシ事ハ人ノ之ヲ行フテ其習

慣トナレルノ故ヲ以テ之ヲ許ルストナシ天人
 ニ命シテ曰ク汝偷盜スルト勿レト而シテ天ハ其
 命令ヲ變スルトナシ故ニ人若シ偷盜ヲ為シテ
 天ノ意ニ忤フキハ其偷盜ノ習慣トナレルハ天
 ノ怒ニ觸ル。ト更ニ甚タレカヲサレテ得ヌ又
 甲者アリ乙者ヲ打テ甲者ノ本心猶己ヲ責ムル
 キ乙者必ス謂フ可シ甲者自ラ其過ヲ悔イ再ヒ
 之ヲ行フ可カラスト然ルニ甲者乙者ヲ見ル毎
 ニ必ス之ヲ打テ終ニ甲者ノ本心毫モ己ヲ責メ
 サルニ至レハ乙者敢テ之ヲ罪無レトセム必ラ

ス謂ハン汝一タヒ我ヲ打ツ猶非ナリ況ンヤ其
 相逢ノ毎ニ我ヲ打ツノ習慣ヲ為スヲヤ
 此説ノ如キ片ハ惡習ニ陥イリ思慮ヲ用ヒスシ
 テ惡事ヲ行フハ惡事ノ大ナルモノダラリルヲ
 得ス

第四章

樂ヲ論ス

造物者ノ人ヲ造ルヤ其周邊ニ生存スル百物ヲ
 欲スルノ念ヲ賦與シテ人ノ此欲ヲ遂クルヲ樂
 ト名ツク蓋シ人ハ飲食音樂風景等各其好ム所

アリ之ヲ口腹耳目ノ樂ト名ツク又書ヲ讀ミ知
 識ヲ博メ詩章ヲ愛シ辨論ヲ好ム之ヲ精神ノ樂
 ト名ツク又朋友親戚ト交リ相與ニ其歡ヲ盡ク
 ス之ヲ交際ノ樂ト名ツク又惡ヲ去テ善ニ就キ
 徳ヲ脩メテ以テ樂ヲ得之ヲ修身ノ樂ト名ツク
 造物者ノ人ヲ造ルヤ是等ノ源ヨリシテ其樂ヲ
 取ルヲ得セシメ且人ノ周邊ニ是等ノ物ヲ供
 備スル時ハ想フニ造物者ノ人ヲシテ是等ノ樂
 フ享ケシメント欲スルヲ明ナリ故ニ造物者ノ
 意ハ常ニ人ヲシテ視聽飲食ヨリ一ノ樂ヲ享ケ

レメ讀書思念ヨリ一ノ樂ヲ享ケレノ朋友親
 ヲリ一ノ樂ヲ享ケシメ善ヲ行ヒ是ヲ為レテ
 事天ニ從フヨリ一ノ樂ヲ享ケレメント欲
 ニ在リ

是等ノ事物ハ皆樂ノ源ニシテ造物者ノ意モ亦
 此等ノ事物ヲ以テ人ノ樂ニ供セレト欲スルニ
 在リ然レ之ヲ用フル自ラ一定ノ度アリテ若
 其度ニ過ルルハ其樂ヲ樂ムヲ能ハサルニ至ラ
 ノハ故ニ食物ノ愛ハ樂ノ為メナレバ放食シテ
 其量ニ過ルルハ嘔心ヲ發シ或ハ病ノ因ヲナシ

或ハ終ニ死ヲ致レ或ハ又之カ為メ其精神及ヒ
 脩身ノ樂ヲ害フニ至ル可レ精神ノ樂モ亦同レ
 ハ若シ之ヲ求ムルノ其度ニ過ルキハ却テ其樂
 ヲ得ルノカヲ害ヒ度ニ過ルト最モ甚クシキ
 ハ終ニ精神錯亂ノ患ヲ生スルニ至ル故ニ脩身
 ノ樂ト雖モ神ニ事ルカ如キハ人間今日ノ狀態
 ニ於テハ之カ為メ健康ヲ害シ快活有益ノ信心
 ヲ生セズ却テ失望疑惑ヲ起ストナキニ非ス
 故ニ其欲ヲ遂クルハ人ノ樂ニシテ造物者ノ意
 ナリト雖モ常ニ造物者ノ定メタル度内ニ於テ

ノミ其樂ヲ得ヘシ若シ其度ヲ踰ルルハ樂ヲ
 得スレテ却テ不幸ヲ生ス故ニ最大ノ樂ヲ得ル
 ハ已ノ欲ヲ恣マニセズ造物者ノ設ケタル定
 則ヲ守ルニ在テ若シ造物者ノ定則ニ齟齬シタ
 ル方法ヲ用ヒ或ハ其度ニ過キテ欲ヲ遂クルキ
 ハ忽チ其身ノ不幸ニ陷ラシムルニ至ル試ミニ
 看ヨ世間最モ樂ナキ人ハ只歡樂ヲ求メ取テ造
 物者ノ定則ヲ顧ミサル者ナリ故ニ人若シ其樂
 ヲ欲セハ左ノ規則ヲ守ルヘシ
 第一 飲食ヲ節スヘシ即チ無益ノ物ヲ飲食ス

ヘカラス暴飲放食スヘカラス人若シ物ヲ食ヒ
之カ為メニ苦痛ヲ起シ或ハ睡眠ヲ催ス片ハ自
ラ其飲食ノ節ヲ失ヒシヲ知ルヘレ

第二 事ヲ為スニ勉強スヘシ人若シ^{ホネ}労働セザ
ルキハ忽チ虚弱多病トナリテ讀書聞見ノ樂モ
之ヲ享ルコト亦少ナシ蓋シ怠惰ハ其身體ヲ害フ
カ如ク亦精神ヲ害フモノナリ

第三 學業ヲ勤ムヘシ然レ尺人々ヲシテ學
業ニノミ光陰ヲ用ヒンムヘキノ謂ニアラス此
ノ如キハ豈人ノ行ヒ得ヘキ所ナラシヤ故ニ其

學業ヲ勤ムルハ人々其職業ノ餘暇アルヤ多ク
ノ時ヲ用ヒ常ニ書ヲ讀ミ精神ヲ研クニ在テ斯
ノ如ク為ス片ハ即チ樂ノ源ニシテ有益ノ具ト
ナルヘシフランクリン^{合衆國ノ大學者}知年^{イグ}
カ初メ印書家ノ^{小奴}ヨリ終ニ理科政科ノ大老
生トナリ大家ノ基テ立テシモ亦其餘暇ノ時ヲ
用ヒタルニ因レリ

第四 善良ナルヘシ即チ每事天ニ事ヘ天ニ從
ハント務ムルヲ言フ蓋シ誠意ヲ以テ天ヲ敬ス
ル人民ハ少長ノ別ナク他ノ人民ヨリ其樂ヲ得

ハ甚タ多キヲ人皆之ヲ聽サ、ルヲ得ス
第五 仁惠ヲ務ム、レ即チ人ヲレテ樂ヲ得セ
レノント欲スルノ謂ニレテ天ニ事フルノ一端
ナリ蓋シ己ノ樂ヲ求ムルヨリハ人ノ樂シムヲ
見テ自ラ之ヲ樂ハコ其樂更ニ深クシテ人ノ知
識ヲ博ムルモ其趣旨亦世人ニ益アルヲ欲スル
ニ在ル、キハ徒ニ己ノ樂ニ供セント欲スルヨリ
其樂特ニ多ク又少年長者ノ別ナク無用ノ衣食
ニ支消スル其費ノ半ヲ以テ人ニ樂ヲ得セシム
ル費用ニ供スル、キハ真ノ樂ヲ得ルヲ實ニ幾多

ナルヲ知ラス

市川清流 校

脩身論前編卷一終

脩身論

前編卷一

三

